

2018年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 <講義録5限目

<<講座のメインテーマ>>

防災・減災は地域の取り組みが  
決め手！その具体的な進め方

記録：講座協力委員 紅林敏行

◆開催月日：2018年11月8日(木) 13:30~17:00

◆開催場所：KU ポートスクエア

◆本日のテーマ◆

・前半：『地域防災の理論と実践』

～みんなで作る「地域防災計画」の伸びしろはどこまであるか？

講師：加藤 孝明 氏(東京大学生産技術研究所 准教授)

・後半：『私たちのまちは私たちが守る』 相模原市光が丘地区の自主防災隊の例

講師：堀口 眞 氏・ 門倉 茂 氏 (相模原市防災マスター)



講義の様子



講師：加藤孝明氏

《地域防災の「ツボ」》

- 一般社会は共助の重要性を理解していない。
- 人間の本质を理解した上で防災に備える(経験していないことは信じない)。
- 「国のガイドラインに従って・・・」ではなく、自分達にあったものに作り直す。
- 防災「も」まちづくり 「市民先行・行政後追い」のパラダイムの取れた備えを進める。開示された災害リスクは自分たちで咀嚼し再解釈し、そして当面の受容リスクを設定。危険だと気づくとキーリスクが出現し地域で自分たちのリスクを考え、地域社会の課題を理解し、その対策を行政共に総合的に検討し、実施していく。

《安全ちょっと不安な社会を！》

- 行政と地域社会の建設的な議論の場を作る。
  - ・「地域防災計画」に「地区防災計画」を記載。
  - ・課題(対応できない部分)を記載、あるいは行間に記載。
  - ・「地区防災計画」には、最低限、地域社会で取り組むべき義務的内容(「避難所の開設」等)は必要。
- 地域社会の課題に総合的にアプローチする取り組みへ発展。
  - ・「こんなまちにしたい！」 防災「も」まちづくり
- 地域社会での防災力の養成
  - ・「何か出来る人」を上手に巻き込んで地域防災力を高める。

《地域社会の衰えを補完することが必須》

- 活動記録を取り纏める。ノウハウと経験を共有。
- Google Earth等の最新技術による支援。
- 地域住民の力を引き出す。体質転換。中学生を交えた取組み、女性だけのワークショップ等
- 計画の策定主体を拡大する。地域のまちづくり、ちいきづくり等の取組み。
- 新たなリーダーでの取組みを喚起、促進 既存の地域組織に拘らないオープンな活動

後半『相模原市光が丘地区の自主防災隊の例』



講師：右から堀口眞氏、門倉茂氏

《従来型の自主防災隊では限界》

- 継続性は必須。
- 専門の防災隊。
- 高い志。(私たちのまちは私たちが守る。)

第5回アイスブレイク だるま雑形文書のご紹介

- 『防災・減災活動に関する生の現物資料』を防災塾だるまHPに公開(片山さんの講座と稲垣さんの講座で現物資料を配布)
- 自主防災・減災活動の立上・成長の拠点は『先事例の模倣・再利用』です。役立てて下さい。



稲垣博正さん

- 光が丘は昭和56年以前の木造密集地帯。道路は狭く、水利も悪い、消防自動車も入り難い。高齢者が多い。地震火災の恐怖！
- 平成20年約50名で緑ヶ丘2丁目独立防災隊を立上げ。(現在正隊員65名、ボランティア隊員15名)
- 平成25年、光が丘地区の9隊の独立防災隊で独立防災隊連絡協議会を立上げ。(現在は13隊の独立防災隊で構成(自主防災隊は10隊) 合同の放水訓練、防災機器取扱い訓練等を実施。
- 5か所の避難所の避難所運営協議会を立上げ。避難所開設と運営が的確に出来るように訓練等実施。

- 『避難所開設イベント養成講座』、『光が丘地区防災マスター(防災士)の会』、『防災マスター(防災士)(相模原市)講座』により防災の専門家を育成。
- 自治会区域内の枠を超え、避難所区域内の災害は協働して対処する。
- 自治会長、防災隊長、防災専門員でまちを歩き、『防災まち歩きマップ』を作成し、配布。
- 防災講演、独立防災隊ニュース発行等で啓発。



総司会：山田美智子さん